Editorial

医療情報に対するリテラシーの重要性

リテラシーとは、元々の「読み書き能力」という意味から、今では、「なんらかの分野で用いられている記述体系を理解し、整理し、活用する能力」、さらには「情報がある形で提示されるに至った経緯や、発信者が隠そうとしている意図や目的まで批判的に見抜く能力」まで指すようになってきている（Wikipedia）。果たして、医療情報の受け手（医療従事者も含まれる）は、そのように意識して情報を見ているだろうか？多くは、記事のまとめや小見出しだけを流し読みするだけで、結論に飛びついているのではないか。

HPV ワクチンの記事を例に挙げると、ある医療系ネット記事に〝オーストラリアでは 2028 年に子宮頸がん撲滅〟、〝周回遅れになってしまった日本〟という小見出しがあった。これを見て、リテラシーを発揮しなければ〝日本はやはりダメだ、欧米に遅れている〟と感じ、HPV ワクチンを推進すべきだという考えを持つようになるだろうし、HPV ワクチンを批判する人たち（本誌を含め）を時代遅れ、勉強不足、場合によっては一種の狂信者とみなすようになるだろう。

リテラシーの第一歩として、ファクトチェックをこの記事でしてみよう。先ず、〝オーストラリアでは 2028 年に子宮頸がん撲滅〟の根拠は、〝10 万人当たり 4 人未満〟との予想にある。だが、これを撲滅とは言わない。辞典で撲滅を引くと、「完全にうちほろぼすこと。根こそぎなくしてしまうこと」とあり、例文として、「伝染病を撲滅する」が挙げられている。WHO が天然痘撲滅宣言をしたのは、患者が発生しなくなったからである。言葉の定義を歪めて、ミスリードしている。

さらに、〝（HPV ワクチンを）接種していない方たちの多くは、ちゃんと知った上であえて接種しないという選択をしたのではなく、ちゃんと知ることなく、何となく接種しないままきている〟と、ワクチンによる被害者の存在を無視して結論している。

これからも本誌は、言葉の使い方・定義にこだわり、薬に関する論文だけでなく、様々な医学情報に対してリテラシーを意識して、情報発信を続けます。